

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600108		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム ゆつつらーと		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101番地3		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和6年2月26日	外部評価確定日	令和6年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かで静かな環境の中で、利用者個々のペースでゆっくりと過ごしていただけるよう、毎日のケアに取り組んでいます。</p> <p>職員それぞれが利用者とのコミュニケーションをとったり、ご本人が出来ることや得意とされていることが生かされるような作業や活動と一緒にこなうことで、認知症の進行防止に努めています。</p> <p>利用者家族との会話や説明が不十分だったために、ケアの方針についての行き違いがおこってしまった例もあった為、利用者家族との会話もより大切にしていきたいと考えています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>施設は斜面の土地に2棟並んで建っている。玄関はそれぞれにあるが建物の内部では階段で繋がっている。施設内は絵文字(ピクトグラム)によって浴室やトイレなどが示されている。周辺は、昔ながらの自然も多い。天気の良い日は近くの公園などに出かけ春には桜、初夏には新緑を、秋は山々の紅葉を楽しむことができる。管理者はグループホームとしての施設の在り方を自問自答しながら、施設の理念である安全、健康、信頼、オンリーワンの暮らしを今後も支援したいと考えている。外国人技能実習生を2人受け入れ共働している。実習生、職員、利用者それぞれが教え教えられる良い環境が生まれている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで・自分らしく・快適に安心して生活していただけるように支援する。	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで・自分らしく・快適に安心して生活していただけるように支援する。	A棟は「安全 健康 信頼」 B棟は「安全 健康 オンリーワン」。事業所理念は創設の時より変わっていない。唱和することはないが、日々の業務の中で共有する機会は多い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により交流は控えている状況が続いているが、地域の回覧板を回してもらい、情報が得られるようにしている。 地域の行事への参加も出来ていないが、普段から近隣住民の方との挨拶や会話は出来ている。	コロナの影響により交流は控えている状況が続いているが、地域の回覧板を回してもらい、情報が得られるようにしている。 地域の行事への参加も出来ていないが、普段から近隣住民の方との挨拶や会話は出来ている。	地域の自治会に入っている。回覧板により地域の行事などの情報を得ることができる。環境整備活動はその日に参加できない時は事前にその作業を済ませるなど地域との協働はいつも意識している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症について理解を深めていただけるよう情報交換をおこなっている。	運営推進会議にて認知症について理解を深めていただけるよう情報交換をおこなっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度の7月、9月、11月は会議を開催し、運営状況や施設の情報等についての報告ができた。 会議に初めて参加して下さった方からグループホームの運営や認知症についての質問があったり、市町村担当者の方と情報交換や意見をいただくことが出来た。	令和5年度の7月、9月、11月は会議を開催し、運営状況や施設の情報等についての報告ができた。 会議に初めて参加して下さった方からグループホームの運営や認知症についての質問があったり、市町村担当者の方と情報交換や意見をいただくことが出来た。	会議の構成メンバーは地域の代表者、行政の担当者、利用者の家族、施設代表者で構成されている。メンバーの要望で会議の開催時間を変更し参加しやすい工夫をしている。頂いた意見は、施設の中で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催時には市町村の担当者に出席をお願いしている。施設入居についての問い合わせや相談をいただくこともあり、その都度情報交換をおこなっている。	運営推進会議の開催時には市町村の担当者に出席をお願いしている。施設入居についての問い合わせや相談をいただくこともあり、その都度情報交換をおこなっている。	2か月に1回開催する運営推進会議は施設の中の様子を見てもらう良い機会となっている。介護サービス相談員の訪問は現在中断しているが、事業所との橋渡し役として今後も期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月と、検討会を2か月に1回実施し、身体拘束解除のため職員間で検討している。やむを得ず身体拘束をおこなう場合は家族に説明をおこない、同意を得た場合のみ実施している。ベッドからの転倒を防ぐためベッド柵を使用していたが、現在は解除し様子を見ている。	身体拘束委員会を毎月と、検討会を2か月に1回実施し、身体拘束解除のため職員間で検討している。現在は身体拘束の実施はないが、やむを得ず身体拘束をおこなう場合は家族に説明をおこない、同意を得た場合のみ実施している。ベッドからの転落を防ぐためにベッド柵を使用していたが、職員間で検討を重ね対応を工夫することで使用回数を減らし、最終的に解除に至ったこともある。	行動の制限をせずに自由な暮らしを支えることをモットーにしているが、やむを得ず行うこともある。その時は関係者で会議を重ね1日でも早く解除するための経過記録もきちんと残されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を毎月実施し、施設内での勉強会でも議題として取り上げ、高齢者虐待への理解を深めるようにしている。	高齢者虐待防止委員会を毎月実施し、施設内での勉強会でも議題として取り上げ、高齢者虐待への理解を深めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの影響により外部の研修会への参加を控えている為、施設内での勉強会にて理解を深めるようにしている。	コロナの影響により外部の研修会への参加を控えている為、施設内での勉強会にて理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて分かりやすく説明するように心がけている。内容の変更があった場合には文書で通知している。	契約書・重要事項説明書にて分かりやすく説明するように心がけている。内容の変更があった場合には文書で通知している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により面会の制限をおこなっているため、利用者だけでなく、職員も利用者家族と顔を合わせて話をする機会が以前よりも少なくなっている。利用料支払い等で来訪された際に近況報告をおこない意見や要望を訊ねたり、職員が家族へ電話をすることもある。意見や要望は職員間で共有し、サービスに反映できるよう検討をおこなっている。	コロナ禍により面会の制限をおこなっているため、利用者だけでなく、職員も利用者家族と顔を合わせて話をする機会が以前よりも少なくなっている。利用料支払い等で来訪された際に近況報告をおこない意見や要望を訊ねたり、職員が家族へ電話をすることもある。意見や要望は職員間で共有し、サービスに反映できるよう検討をおこなっている。	以前は家族会を年に1回、敬老会の後の時間開催していたが、コロナ禍以降は自粛している。コロナが5類となったことで面会制限を緩和しており、意見や要望を聞く機会は多くなっている。積極的に声をかけ、信頼関係を築いていきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ユニット合同での職員会議を毎月実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、本部担当者や管理者が職員と個別で話をする機会を設けることもあり、情報交換や意見・要望の聞き取りをおこなっている。各ユニットで利用者のカンファレンスも随時おこなっている。	2ユニット合同での職員会議を毎月実施し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、本部担当者や管理者が職員と個別で話をする機会を設けることもあり、情報交換や意見・要望の聞き取りをおこなっている。各ユニットで利用者のカンファレンスも随時おこなっている。	職員の職能については評価システムがある。多くの職員が福利厚生は手厚く働きやすい環境と感じている。設備の不具合や新規購入などの要望について臨機応変に対応されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境や条件の整備に努力している。管理者や職員との面談の機会を設け、意見や要望を聞き取り反映させるように努めている。	代表者は職場環境や条件の整備に努力している。管理者や職員との面談の機会を設け、意見や要望を聞き取り反映させるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響により外部研修への参加は控えており、職員間での意見や情報交換を密におこない、お互いの能力を伸ばししやすい環境づくりに努めている。	コロナの影響により外部研修への参加は控えており、職員間での意見や情報交換を密におこない、お互いの能力を伸ばししやすい環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居についての相談を受けた後、入居前に本人が生活されている自宅や施設を訪ね、現在の困りごと等話を聞きながら信頼関係の構築に努めている。	入居についての相談を受けた後、入居前に本人が生活されている自宅や施設を訪ね、現在の困りごと等話を聞きながら信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に管理者や計画作成担当者が家族の現状の負担や困りごと等を聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。	入居相談時に管理者や計画作成担当者が家族の現状の負担や困りごと等を聞き、事業所のサービス内容や費用について説明をおこなっている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、最も必要と思われるサービスの提案や紹介をおこなっている。	入居相談の内容によっては、様々な選択肢があることを説明し、最も必要と思われるサービスの提案や紹介をおこなっている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に毎日の洗濯物作業や食器洗い等の家事作業をおこなっている。利用者同士がお互いを労わり合う雰囲気もできており、利用者個々の出来ることや得意としていることを新しく発見できることもある。	利用者と共に毎日の洗濯物作業や食器洗い等の家事作業をおこなっている。利用者同士がお互いを労わり合う雰囲気もできており、利用者個々の出来ることや得意としていることを新しく発見できることもある。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、家族の来訪時や電話、施設の新聞等で近況報告をおこなっている。しかし、コロナの影響もあって家族と顔を合わせて話をする機会が以前よりも少なくなり、ケアについての説明や意見交換が不十分であったと感じることもある。	利用者とその家族の関係や気持ちを傾聴し、家族の来訪時や電話、施設の新聞等で近況報告をおこなっている。コロナの影響により面会の制限もおこなっているが、電話やリモート面会の実施、手紙のやりとり等で家族との関係が途切れないように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前の生活歴や人間関係の把握には、利用者本人や家族、担当のケアマネジャーや利用していた施設等から情報を聞くようにしている。普段の会話の中で馴染みの場所や友人の思い出話をすることもある。コロナの影響により外出は限られてしまうが、ドライブに出掛けた際は馴染みの場所にも行けるようにしている。家族の希望もあり、自宅周辺にドライブに出掛けた方もいる。	入居以前の生活歴や人間関係の把握には、利用者本人や家族、担当のケアマネジャーや利用していた施設等から情報を聞くようにしている。普段の会話の中で馴染みの場所や友人の思い出話をすることもある。コロナの影響により外出は限られてしまうが、ドライブに出掛けた際は馴染みの場所にも行けるようにしている。	家族のみでなく、姪や孫など縁者の面会は多い。数は多くないが友人知人の訪問もある。病院受診の帰りに日々の会話に出てくる思い出のところや自宅のそばを通過することは多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の配置等に配慮している。職員は利用者同士の間に入り、話題を提供することでより良い雰囲気の中でコミュニケーションをとってもらえるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、席の配置等に配慮している。職員は利用者同士の間に入り、話題を提供することでより良い雰囲気の中でコミュニケーションをとってもらえるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況を訊ねることもある。	退去された利用者の家族から連絡があったり、施設から近況を訊ねることもある。以前入居されていた利用者の家族より、利用者の配偶者の入居相談を受け、入居に至った経緯がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者との日常生活での関わりの中でも思いや意向の把握に努め、聞き取った情報は口頭や記録に残すことで職員間での共有を図っている。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や本人の普段の言動や表情等から意向を汲み取るように努めている。聞き取った情報は介護計画作成時に活用している。	利用者との日常生活での関わりの中でも思いや意向の把握に努め、聞き取った情報は口頭や記録に残すことで職員間での共有を図っている。意思疎通の困難な方は、家族からの情報や本人の普段の言動や表情等から意向を汲み取るように努めている。聞き取った情報は介護計画作成時に活用している。	日々の関りの中で意向を把握している。1対1の時、例えば居室訪問の時、入浴の時などが大切な時間である。表現の難しい利用者については家族や入所前の関係者からの情報で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族からの聞き取りにて情報把握に努めている。時間が経過してから新たに情報を得ることもあるため、随時聞き取りをおこない、普段の日常会話の中でも情報把握に努めている。	利用者本人や家族からの聞き取りにて情報把握に努めている。時間が経過してから新たに情報を得ることもあるため、随時聞き取りをおこない、普段の日常会話の中でも情報把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、心身状態や利用者個々のペースに合わせたケアに努めている。日々の生活の中で本人の出来ること・出来ないことの把握に努めている。	利用者それぞれの1日の過ごし方を観察し、心身状態や利用者個々のペースに合わせたケアに努めている。日々の生活の中で本人の出来ること・出来ないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や、かかりつけ医の意見、看護職員や介護職員等ケアに関わる方の意見を聞きながら計画作成をおこなっている。利用者の心身の変化に応じてケアの見直しをおこない、カンファレンスでは夜勤専門の職員や調理担当の職員からも意見や情報を貰い、計画作成に反映している。モニタリングは職員からの話や日々の介護記録を参考に、計画作成担当者が毎月1回おこなっている。	利用者・家族の意向や、かかりつけ医の意見、看護職員や介護職員等ケアに関わる方の意見を聞きながら計画作成をおこなっている。利用者の心身の変化に応じてケアの見直しをおこない、カンファレンスでは夜勤専門の職員や調理担当の職員からも意見や情報を貰い、計画作成に反映している。モニタリングは職員からの話や日々の介護記録を参考に、計画作成担当者が毎月1回おこなっている。	計画作成担当者は夜間の勤務もしているため、利用者の様子を24時間感じることができる。計画は医療面や生活の各場面からのニーズを課題分析されたものとなっている。家族へのアンケートでも多くの人が説明を受け話し合っていると回答されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の記録から情報を集め、介護計画作成時のアセスメントに活用している。職員には、利用者や家族からの生活に対する思いが聞き取れた際には記録に残してもらうようお願いしている。	日々の様子の記録から情報を集め、介護計画作成時のアセスメントに活用している。職員には、利用者や家族からの生活に対する思いが聞き取れた際には記録に残してもらうようお願いしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時の状況や、利用者本人・家族の意向を汲んで臨機応変な対応を心がけている。	利用者のその時の状況や、利用者本人・家族の意向を汲んで臨機応変な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2～3か月に1度地域の理髪店に訪問していただき散髪をお願いしている。また、防災に関する連携として、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携を図っている。	2～3か月に1度地域の理髪店に訪問していただき散髪をお願いしている。また、防災に関する連携として、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は協力医をかかりつけ医とした方が殆どである。月2～3回の定期往診のほか、異常時には随時相談や受診をし、適切な医療を受けられるよう支援している。 他科受診の際には、家族に行きつけや希望先がないか訊ね、行きつけの病院があればそこに受診・往診を依頼している。	入居後は協力医をかかりつけ医とした方が殆どである。月2～3回の定期往診のほか、異常時には随時相談や受診をし、適切な医療を受けられるよう支援している。 他科受診の際には、家族に行きつけや希望先がないか訊ね、行きつけの病院があればそこに受診・往診を依頼している。	入居をきっかけに協力医を主治医と変更される方が多い。説明を受け納得しての変更である。入居前からのかかりつけ医を継続されている利用者も居られる。病院受診は施設の看護師が付き添い、医療関係者との連携が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士と看護師で日々の情報交換や相談をおこない、状態変化の早期発見・早期対応に努めている。看護師の出勤日以外や夜間帯でも連絡がとれるようにしており、状況に応じて電話での指示を受けたり、看護師が駆け付け対応することもある。	介護士と看護師で日々の情報交換や相談をおこない、状態変化の早期発見・早期対応に努めている。看護師の出勤日以外や夜間帯でも連絡がとれるようにしており、状況に応じて電話での指示を受けたり、看護師が駆け付け対応することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院する際の医療機関への情報提供をおこない、入院中は面会や電話で様子を訊ね情報の把握をおこなっている。退院時は医療機関、家族と相談し退院後の受け入れがスムーズにおこなえるよう調整している。	利用者が入院する際の医療機関への情報提供をおこない、入院中は面会や電話で様子を訊ね情報の把握をおこなっている。退院時は医療機関、家族と相談し退院後の受け入れがスムーズにおこなえるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、入居時に家族に説明し同意を得ている。看取りはおこなっておらず、体調面の変化に応じて家族と今後の対応について話し合いをおこなっている。	利用者が重度化した場合における対応に関わる指針について、入居時に家族に説明し同意を得ている。看取りはおこなっておらず、体調面の変化に応じて家族と今後の対応について話し合いをおこなっている。	事業所では看取りは行っておらず、入居時に本人、家族に説明している。施設での生活が難しいと判断した時は、今後の選択肢も含めて、話し合いを何度も重ね、本人や家族が安心して納得した終末期を迎えられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	武雄消防署員より応急手当についての研修を受けた職員もおり、AEDも準備し使用方法の研修も随時おこなっている。夜間の緊急対応マニュアルも整備している。	武雄消防署員より応急手当についての研修を受けた職員もおり、AEDも準備し使用方法の研修も随時おこなっている。夜間の緊急対応マニュアルも整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練及び消火訓練や、地震や水害等自然災害に対する訓練を年2回ずつ実施している。火災訓練での避難場所は近隣のお寺やアパートに協力をお願いしている。地域の方々から避難時の協力の申し出もあっている。 防災委員の担当職員が地域の指定避難場所を見学、説明を受けに向いて情報の把握にも努めている。また、ハザードマップでは土石流エリアとなっており、運営推進会議で自然災害時の対応についての話があがることもある。地域住民の方より情報を得る機会となっている。	火災避難訓練及び消火訓練や、地震や水害等自然災害に対する訓練を年3回ずつ実施している。火災訓練での避難場所は近隣のお寺やアパートに協力をお願いしている。地域の方々から避難時の協力の申し出もあっている。 防災委員の担当職員が地域の指定避難場所を見学、説明を受けに向いて情報の把握にも努めている。また、ハザードマップでは土石流エリアとなっており、運営推進会議で自然災害時の対応についての話があがることもある。地域住民の方より情報を得る機会となっている。	施設独自の自営消防団がある。経験豊富な防災担当者の指導の下、定期的な訓練が実施されている。訓練計画書、実施記録、管轄消防署への提出書類はきちんと整理されている。離設による行方不明者捜索の訓練も行われている。訓練後には反省点や改善点が話し合われている。自然災害時には確実な情報察知と早めの避難が重要であることも承知している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々のプライバシーに配慮した声掛けや介助を心がけている。特に排泄や入浴時の介助には配慮が必要であり、同性職員による介助が適している場合もある。 施設で作成している新聞等への写真の掲載については、入居時に家族に確認をおこなっている。	利用者個々のプライバシーに配慮した声掛けや介助を心がけている。特に排泄や入浴時の介助には配慮が必要であり、同性職員による介助が適している場合もある。 施設で作成している新聞等への写真の掲載については、入居時に家族に確認をおこなっている。	その人に応じた声掛けで対応している。またさりげない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の意思を尊重し、日常生活の中でのささいな事でも自己決定が出来るように支援している。	利用者本人の意思を尊重し、日常生活の中でのささいな事でも自己決定が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時の心身状態に合わせたケアをおこなうよう心掛け、利用者個々のペースで安心して生活していただけるよう努めている。	利用者のその時の心身状態に合わせたケアをおこなうよう心掛け、利用者個々のペースで安心して生活していただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも配慮するよう心掛けている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自身で決めていただくこともある。以前から使用していた化粧品類を持ち込み使用されている方もいる。必要に応じて管理は職員がおこなっている。	朝の整容や外出時の服装、普段の衣服の組み合わせ等にも配慮するよう心掛けている。自己決定が出来る利用者にはどの衣服を着用するか、ご自身で決めていただくこともある。以前から使用していた化粧品類を持ち込み使用されている方もいる。必要に応じて管理は職員がおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は本部の栄養士が作り、旬の食材の使用や季節のイベントに応じたメニューを取り入れている。入居時に利用者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握に努め、代替えの食材を使用することもある。利用者の役割として、食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きをお願いしている。	献立は本部の栄養士が作り、旬の食材の使用や季節のイベントに応じたメニューを取り入れている。入居時に利用者の好き嫌いやアレルギーの有無の把握に努め、代替えの食材を使用することもある。利用者の役割として、食器洗いやお盆拭き、テーブル拭きをお願いしている。	栄養管理された献立と食材が一括されて届く仕組みとなっている。専門の調理員が利用者の食形態に沿って普通食からミキサー食やソフト食で調理している。コロナ前までは職員も一緒に食事していたが、感染対策の面から現在はやめている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により1日1600Calで献立が作成されている。個々の食事・水分摂取量を毎日チェックしており、適度な食事及び水分の確保が出来るよう支援している。	栄養士により1日1600Calで献立が作成されている。個々の食事・水分摂取量を毎日チェックしており、適度な食事及び水分の確保が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。義歯を使用している方は、夜間は預り洗浄剤に浸けている。自分で十分に歯磨きが出来ない方は職員が仕上げ磨きをおこなう。訪問歯科を受け、定期的に治療と口腔ケアをしてもらう方もいた。	毎食後、歯磨き支援をおこなっている。義歯を使用している方は、夜間は預り洗浄剤に浸けている。自分で十分に歯磨きが出来ない方は職員が仕上げ磨きをおこなう。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、時間をみてのトイレ誘導や、利用者の言動により排泄のタイミングを図り誘導をおこなっている。自力でトイレへの移乗が出来ない方も、ポータブルトイレを使用したり職員が介助することで、なるべくトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、時間をみてのトイレ誘導や、利用者の言動により排泄のタイミングを図り誘導をおこなっている。自力でトイレへの移乗が出来ない方も、ポータブルトイレを使用したり職員が介助することで、なるべくトイレでの排泄が継続できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し声掛けすることで紙パンツやパットの節約に繋がっている。トイレの中も車いすでも十分に移動できるスペースが確保されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日確認し、水分補給や適度な運動を促すことで便秘予防に努めている。便秘など便の症状に応じて、看護師や主治医と相談のうえ下剤の調整もおこなっている。	排便の有無を毎日確認し、水分補給や適度な運動を促すことで便秘予防に努めている。便秘など便の症状に応じて、看護師や主治医と相談のうえ下剤の調整もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴日を設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮し、入浴日以外でも汚染等があれば入浴の時間を設けている。衣類の着脱や洗身等、利用者が自分で出来ることはしてもらっている。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴日を設けている。利用者の希望や体調に応じて入浴のタイミングに配慮し、入浴日以外でも汚染等があれば入浴の時間を設けている。衣類の着脱や洗身等、利用者が自分で出来ることはしてもらっている。	浴室は家庭用の浴槽が使われている。脱衣所は広く、時には洗濯物を干すこともできる。ゆず湯、入浴剤を使って温泉気分を味わったりしている。お正月はお屠蘇湯を楽しんだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで好きなタイミングで休息してもらっている。利用者の心身状態や状況に応じて、職員が休息を促すこともある。休息される際は居室内の室温等の環境にも配慮している。	自分のペースで好きなタイミングで休息してもらっている。利用者の心身状態や状況に応じて、職員が休息を促すこともある。休息される際は居室内の室温等の環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主に看護師が管理し、服薬方法や副作用等について職員に説明をおこなっている。服薬マニュアルも整備し、事故防止に努めている。誤薬事故が発生した場合は看護師、主治医へ報告し、医師からの指示を貰い対応するようにしている。	主に看護師が管理し、服薬方法や副作用等について職員に説明をおこなっている。服薬マニュアルも整備し、事故防止に努めている。誤薬事故が発生した場合は看護師、主治医へ報告し、医師からの指示を貰い対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の出来ること、出来ないことの把握に努め、その人に合わせた役割づくりや活動をおこなっている。職員と共に花を生けたり、裁縫や編物をされる方もいる。利用者本人と家族の希望によりアルコール飲料を飲まれる方もいる。	利用者個々の出来ること、出来ないことの把握に努め、その人に合わせた役割づくりや活動をおこなっている。施設中央のテラスを利用し、植物や野菜を育てる方もいた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により外出の機会は少なくなっている。人手が多い場所への外出は控えているが、施設周辺の散歩やドライブは随時おこなっている。家族と共にドライブに出掛けられる方もいる。	コロナの影響により外出の機会は少なくなっている。人手が多い場所への外出は控えているが、施設周辺の散歩やドライブは随時おこなっている。	天候を見ながら施設周辺の散歩に出かける機会はある。病院受診などの帰りには馴染みのところに回り道することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人で金銭を管理している方はいない。欲しい物や必要なものがある場合は家族へ購入をお願いしたり、個人の預り金から職員が購入している。	いくらかの金銭を手元を持っており、必要なものの購入を職員に依頼される方もいる。その他の方は欲しい物や必要なものがある場合は家族へ購入をお願いしたり、個人の預り金から職員が購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参された方もおり、好きなタイミングで家族と連絡を取り合っておられる。希望があれば施設の電話を使用しお話されたり、家族や知人から電話が来ることもある。遠方にいる家族から定期的に手紙が送られて来る方もいる。	携帯電話を持参された方もおり、好きなタイミングで家族と連絡を取り合っておられる。希望があれば施設の電話を使用しお話されたり、家族や知人から電話が来ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	団らんの場と食事をする場でスペースが分かれており、メリハリのある生活を送ってもらえるよう対応している。歩行や車椅子移動の妨げにならないよう、環境整備に努めている。 施設の壁を利用して季節感のある壁面飾りや、季節イベント時の写真を掲示している。中央のテラスや付近の廊下で日光浴をされる方もいる。	団らんの場と食事をする場でスペースが分かれており、メリハリのある生活を送ってもらえるよう対応している。歩行や車椅子移動の妨げにならないよう、環境整備に努めている。 施設の壁を利用して季節感のある壁面飾りや、季節イベント時の写真を掲示している。中央のテラスや付近の廊下で日光浴をされる方もいる。	建物の中央に吹き抜けのテラスがあり施設の中を明るくしている。テラスからの採光の調節はカーテンで行われている。共有空間は余裕あるつくりとなっており、車いすでの移動も容易である。道路に面した建物であるが騒音は気にならない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂を活用することにより、1人でも気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。席の配置も配慮している。	居間と食堂を活用することにより、1人でも気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。席の配置も配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはタンス等家具が備えてあるが、自宅から馴染みの家具や私物を持ち込まれている方もいる。配置や飾り方は利用者本人や家族と相談し、居心地良く過ごしてもらえよう努めている。家族の写真やお好きな本を持ち込んでおられる方もいる。	各居室にはタンス等家具が備えてあるが、自宅から馴染みの家具や私物を持ち込まれている方もいる。配置や飾り方は利用者本人や家族と相談し、居心地良く過ごしてもらえよう努めている。 夫婦で入居されている方は、本人や家族の希望で2つの居室を居間と寝室に分けて使用されている。	ベッドは施設で準備されている。固定ベッドや介護用ベッドなど様々なものが準備されている。マットレスは耐圧分散仕様となっている。シーツなどの交換は週1回実施され、マットレスの交換も必要時には行われている。衣服などの収納スペースは広く、四季の衣服を収納することも可能で、居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行や車椅子自操が出来る方にも配慮し、安全な動線の確保に努めている。居室やトイレの場所が把握できるよう、目印をつけている箇所もある。	自立歩行や車椅子自操が出来る方にも配慮し、安全な動線の確保に努めている。居室やトイレの場所が把握できるよう、目印をつけている箇所もある。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
		○		3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
		○	○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○		1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○		1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない